

平成 26 年度第 1 回ルール委員会議事録

開催日時： 2014 年 6 月 28 日(土) 10:30～16:30
開催場所： 岸記念体育会館

<出席者>

委員：増田 開、大村 雅一、前園 昇、松原 次夫、青山 篤、柴沼 克己、川北 達也
日下部 大蔵、秋元 和子、桜井 常雄、岡部 幸司、山口 泰正、高野 由美子
佐藤 百一、渡辺 勝、岡嶋 佳治、石川 雅之、川田 貴章、加藤 圭二、黒木 信治
兼田 幸治、吉本 昌弘 計 21 名 (欠席 15 名)
顧問委員：周東 英卿、前田 彰一 計 2 名 (欠席 3 名)
支援委員：高田 俊男、原 良一 計 2 名 (欠席 1 名)
事務局：吉田 愛美 計 1 名 (欠席 1 名)

1 <報告>平成 26 年度事業計画

今年度ルール委員会メンバー紹介の後、増田委員長より、資料(添付省略)に基づき、平成 26・27 年度 JSAF ルール委員会活動の目的と方針、平成 26 年度事業計画、小委員会構成と小委員会間の業務分担の説明がなされた。

2 <協議>各小委員会内の分担、推進協議(キックオフミーティング)

※複数小委員会に所属する委員があるため、3 回に分けて実施。
育成、外洋、規程、普及、ジャッジ、アンパイアに分かれて各小委員会の事業計画と小委員会内での委員の役割分担について協議が行われた。

3 <報告>小委員会内協議結果報告

各小委員会から議事 2 の協議結果について報告があった。

3.1 ジャッジ小委員会

ウィンドサーフィン競技規則(付則 B)に対応した NJB/NJA の試験問題作成および講習内容の更新を行うこととなった。

3.2 IU/IJ 育成小委員会

IJ セミナーを 2016 年 6 月または 7 月に招致する方向で準備を進めることとなった。

3.3 アンパイア小委員会

例えば大学間の定期戦等へのチームレース普及に向けて、先ず現状把握を行っていく。

3.4 規程小委員会

従来業務に加えて、RRS 正誤表の管理と展開を小委員会業務として行う。また、タイムリーな日本語訳展開をより確実に効率的に行うための体制や役割分担等について検討することとした。Appendix SY, Appendix CBX など、新たに ISAF から発行される規程等の邦訳については、優先順位を勘案し、都度検討する。

3.5 外洋小委員会

RRS55 及び ISAF Q&A N002 N003 の周知に取り組む。

Judging Oceanic & Offshore Racing の日本語訳に取り組む。

3.6 普及小委員会

従来講習会の継続に加えて、海上アセスメントの実施を検討する。

4 <審議>IU/IJ 推薦委員会メンバー

増田委員長より、資料(添付省略)の通りメンバーの推薦があり承認された。

5 <協議>かけ声「プロテスト(抗議)」の英語化

従来、国内の大会においては「プロテスト」「抗議」のいずれも有効なかけ声としてきたが、例えば 2017 年から「プロテスト」のみを有効とすることについて、増田委員長より、前年度委員会での協議内容の説明がなされた。変更する必要性や目的を明確にする必要があるとの意見があった。次回のルール委員会では審議を行う。

6 その他(ケース共有・研究)

下記についてケース共有等を行った。

- 規則 J1.2(14)と付則 K 前文との矛盾について
ISAF へ Q&A を提出することとなった。
- ゴムバンドと規則 55 について
規則 55 と環境責任について認識確認を行った。
- New Evidence について
審問再開の条件である「新しい」証拠の解釈についてのケース報告があった。
- 折れたラダーの代わりに足入れた帆走について
RRS42.1 の「艇はスピードを増し、持続し又は減ずるために」に抵触するのか、あるいは、この行動はシーマンシップに基づくもので RRS42.1 で認められる行動なのか、等について議論が行われた。
- 艇から規則 42 違反を抗議された場合のペナルティーについて
付則 P に基づくペナルティー（1 回目は 2 回転）との、規則としての整合性に欠けるのではないか、という点について議論が行われた。

以上